



3年間の任期を終えて…

『今』も輝く 地域おこし協力隊

城里町は、地域おこし協力隊を平成28年度から導入し、令和2年度までに19名の隊員を受け入れてきました。任期を終えてからも、なお、町のために奮闘する、元協力隊5名の「今」を紹介します。

ごとう 後藤
けいすけ 啓介さん



任期中の活動(2017年4月～2020年3月)

島家住宅を活用した地域資源のPRや、交流都市江戸川区での交流事業と特産品のPR販売を行いました。活動3年目には、調理師経験を活かし、町内新規就農者の農産物をイタリア風にアレンジするなど新しい食べ方を提案し、広くPRしました。

現在は、町が運営する『健康増進施設ホロルの湯』のレストランにて、料理長として勤務しています。コロナ禍の中、試行錯誤の日々が続きますが、恵まれた自然の中で育った安心安全な農産物は、今後もニーズが高まると思います。

協力隊の活動経験を活かしながら、町内の農産物をPRできることを誇りに感じて、これからも頑張りたいと思います。

任期中の活動(2017年4月～2020年3月)

主に有機栽培をしている農家さんで研修を受け、土作りから収穫、出荷まで、ひととおりの作業を学ぶことができました。また、他の隊員とともに古内茶のPRのお手伝いや、初音茶の管理なども行いました。

現在は、町内で就農し、研修で学んだ有機栽培のノウハウを実践しています。米ぬかを使った太陽熱養成処理で立派なニンジン



を育てることができました。失敗もありますが、おおむね順調なスタートをさせています。収穫した野菜は、有機農産物を扱う直売所などで販売しています。今後は、町内でも有機野菜が身近になるよう、販路を拡大していきたいです。

ひわたし かわり
日渡 香さん



任期中の活動(2017年4月～2020年3月)

就農に向けてナスの栽培を中心に、ショウガ、ソラマメなどの農業研修を行いました。また、栽培技術のほかに、経営に関するセミナーや先進事例の研修、異業種交流会などにも取り組んできました。

研修先の農家さんとは今でも連絡を取り、栽培の相談に乗ってもらったり、機械を貸して頂いたり、時には農地の斡旋もして頂いたりといろんな方に助けてもらい、大変感謝しています。

現在は、町内に定住し、夫と2人で増井地区の畑を中心に農業をしています。主に春夏秋とナスの栽培がメインで、冬の今は干し芋づくりをしています。町内では道の駅に出しています。皆さんの手に取って頂けるような味も見た目も最高品質な野菜作りを目指して頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。



わたなべ
渡辺

れいか
麗香さん



いのくち
井口

けんじ
健司さん

任期中の活動(2017年4月～2020年3月)

町内の農家の皆さんからナス、ソラマメ、レッドポアローなどの野菜の栽培の研修をさせていただきました。研修を通じて、気象条件に応じた対策や工夫、体調管理の重要性などを学ばせていただきました。

現在は、研修の経験を活かして、初夏が旬のソラマメや夏野菜のナスなどを栽培しています。また、協力隊活動を通じて得られた人脈も活かして、竹林整備や竹の農業利用に取り組んでいきたいと思っています。今後は、みんなが参加できるような活動内容にしたいと考えていますので、ご興味のある方は、ぜひお声がけください。

2人は、協力隊に採用されて出会い、一緒に味噌づくりを行ったことがきっかけで結婚し、城里町に定住することになりました！



いのくち
井口

ゆか
有加さん



任期中の活動(2016年4月～2019年3月)

道の駅かつら内の食堂にオープンした和カフェ『かつら茶屋』を運営しました。カフェでは、古内茶を使用したプリンや城里町産のそば粉を使用したロールケーキなどを手作りして提供し、特産品をPRしました。

現在は、茨城県埋蔵文化財センターに務めながら、畑仕事や収穫した作物で保存食づくりをしています。手前味噌ではありますが、自家製梅干しはとても美味しいと評判です。また、城里町は年間をとおして、いろいろな野菜が収穫できるので、東京の実家や遠方に住んでいる友人に『城里直送便』として、新鮮な野菜を送っています。

今後は、町内外の方を対象とした筍掘りなどの農業体験にも挑戦したいと思っています。